

**山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター主催  
第5回緩和ケア看護師教育プログラム 修了後アンケート**

5：大変そう思う 4：ややそう思う 3：普通 2：あまりそう思わない 1：全くそう思わない

回答人数20人

**モジュール1：緩和ケアの概要**

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	14人	5人	1人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	10人	9人	1人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	12人	7人	1人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	12人	7人	1人	0人	0人

**モジュール2：患者の意思決定支援**

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	13人	6人	1人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	13人	6人	1人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	12人	7人	1人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	16人	3人	1人	0人	0人

**モジュール3：苦痛緩和**

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	14人	4人	2人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	12人	6人	2人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	12人	7人	1人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	16人	3人	1人	0人	0人

## モジュール4：専門家への橋渡し

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	12人	7人	1人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	7人	12人	1人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	10人	9人	1人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	13人	6人	1人	0人	0人

### 全体について

I. 本プログラムを受講して、早期からの緩和ケアの重要性が理解できましたか。

5. 大変 そう思う	4. やや そう思う	3. 普通	2. あまりそう 思わない	1. 全くそう 思わない
19人	1人	0人	0人	0人

II. 本プログラムの内容は、あなたの期待をどの程度満たしましたか。

5. 大変 満足した	4. やや 満足した	3. 普通	2. あまり満足 していない	1. 全く満足 していない
11人	7人	1人	0人	0人

III. プログラム全体や配布資料についてなど、ご意見・ご感想をお聞かせください。

・苦痛緩和のモジュールでは、オピオイド鎮痛力価換算（オピオイドスイッチング）について事例検討もあり、臨床で活かせることができる内容であった。食欲不振のケア・気持ちのつらさの治療・不眠・倦怠感についても講義があった為、勉強になった。音声  
が少し小さい気がしたため、もう少し音量を上げてほしかった。ありがとうございました。

・緩和ケアに関する詳細な講義を聴いて、多くの事を学ぶことができた。

・教材の情報量が多く、結論的・本質的なことがとらえにくく感じた。私自身の理解の  
乏しさや端的に結論付けることができない分野であるということもあるが...

・全体的に聴きやすく、わかりやすい内容でした。視聴期間がもう少し長ければよいと  
思いました。

・ボリュームのある講義内容でしたが、いい勉強になりました。

・4時間と研修時間が長いので、もう少し動画を見る期間が長いと嬉しいです。

・具体的なコミュニケーションの方法や声掛けも内容に入っており、日ごろの関りに活かしてみたいと思います。時期や時間が許せば、グループワークでの症例検討を行い、たくさんの意見を聞いてみたいです。

・意思決定や専門家との連携は、わかっているもうまくいかないことが多いなと思った。

・苦痛緩和については、自分が知らなかったことも知ることができて良かった。

・講義の流れや話し方、プログラムの構成など、また、資料もカラーでとても分かりやすく、見やすかったと思います。

・緩和ケアの様々な場面で、看護師は患者と接しながらQOLを向上させることができるよう関わっていく必要があると思った。また、がん以外の生命を脅かす疾患について、QOLを向上させていくにはどのように関わっていくかについても知っていききたい。

・大変充実した内容で分かりやすかった。ケアの担い手という立場としては、モジュール3-2での「疼痛以外の苦痛症状へのケア方法」について、効果が得られた具体策などもお話しただけなら良かった。緩和ケアは、がん患者だけでなく、心不全やCOPDの末期、骨髄損傷の患者にも必要なケアなので、得た知識を連携などに役立てたい。

・今まで患者さんとの会話で沈黙を作ってはいけない、何か喋らないといけないと思って会話や情報収集を行っていたが、今回の傾聴という学びで沈黙は作っていいもの、また、「お話しにくいことですか？」と素直に伝えることが大事ということが分かりました。また、今までは、患者の負担や言いづらさがあるのではないかと勝手に思い込み、クローズドクエスションばかり使用していましたが、オープンクエスションの効果を知り、今後の患者さんのコミュニケーションを通して積極的に使っていきたいと思いました。

・カラーなのでとても見やすかったです。冊子になっているので保管もしやすいです。

・配布資料はモジュール別にファイリングされており、今後、見直す際にも有効であると感じた。

・緩和ケアの基本から連携方法まで詳しく資料があり、わかりやすい講義であり、大変興味を持って、勉強になりました。今年度は緩和ケアリンクナースとなり、学んだことを活かして日々看護していきます。

・オピオイドスイッチングについて分かりやすく書いてあり学びが深まった。また、資料として薬剤について詳しく書いてあり、学びがあった。

・しっかり聞きたいけれどテンポが速くてついていけない所はあったが、Webだったので繰り返し視聴ができたのは良かった。

・図や症例を用いてわかりやすく工夫されており、興味を持ったり、何度も繰り返し学習していく上で役立つものであった。症状緩和が必要な患者が各病棟にいるため、看護師で共有して使用できる指標パンフレットのようなものがあると患者さんの状態把握や情報収集に役立つと思われる。(痛みの評価...在宅に移行するための準備のプロセスなど)

・要点がまとめられており、また、具体的な事例もあったため、とても理解しやすかった。あまり、がん患者さんに関わる機会がないため、聞きなれないことが多くやや理解できなかった。